３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

【定例活動報告】

3月第1日曜日は、小原活性化協議会に出て、協議を行った。第3日曜日の17日は森林インストラクターの埴原さん、大月で観光農園を手伝っている若者男女2人の参加を得て、小原～孫山ハイキングルートの整備に入った。

倒木処理と景観伐採を目的でチェンソー・ロープ・フェリングレバーなどを運んで2本の倒木と景観伐採が捗った。山頂近くで食べたカップ麺が見に染みる。桜はまだだが、春の陽気の中での作業でした。

小林　照夫（本会、理事）

【表紙写真から】

本会副理事長の宮村がこの度、同賞を受賞しました。審査事務局からのコメントをご紹介します。

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。

「研究の視点を重視しつつも学生時代の経験を生かして人づくりにつなげている。取り組みは独創的。」
「森林整備作業に特化した取組みでユニーク。中高生が対象というのもポイント。産業や林業の技や道具を垣間見ることだけでも中高生には刺激になると思うが、それを意識的に人づくりという、より社会性の高い取組みにつなげているところに個性を感じる。」
「中学校の先生をしながら、NPOを舞台に人づくりをされています。CSOラーニング（インターン制度）による修了生で、業界の人材育成によって育てられたという見方もできます。環境と林業とICTという取り組みはあまり聞いたことがなく独創的です。」

【定例活動報告】知足の森

３月に入り暖かくなったものの、子どもたちの言う「黄色い悪魔」の季節となった。地主さんから、花粉が多すぎて、庭からスギの芽が出てくると言うちょっとゾッとする話を思い出しながら、日曜日を迎えた。しかし、この日は幸か不幸か雨模様。長福寺の森は斜面がきついので、作業は取りやめて、調査したいと思っていたところでの活動。中高大学生９名と角田さんと。この斜面はGIS上では0.2haと狭いのだが１５から２０年生なのに直径が１０センチそこらしかない木がたくさん植わっている区画。どれくらいの範囲にどれくらい植わっているかを調査しました。その結果を桜井先生に相談したところ、逆にちゃんとしているのはどれくらいあるのか、それ次第でそういった木は「雑木」扱いでいいのではないか、と。次回、逆にそっちの毎木調査をすることになった。

宮村　連理（本会、副代表理事）

桜井尚武の森のコラム

「ミツデカエデ(*Acer cissifolium*)とイロハモミジ(*Acer palmatum*)の花とサクラの落花」

図1. ミツデカエデの総状花序
20140420嵐山

図2. ミツデカエデの花
20140420嵐山

図3. イロハモミジの花
20190319南千住

図4. 落下したソメイヨシノ
20190326南千住天

カエデは紅葉／黄葉の秋のモミジをめでる植物として有名です。でも嵐山の基地の奥にあるミツデカエデの総状花序に連なる4月の花は見事です、「美事」と書きたい。今までこの時期に見たことがなかった花を2014年春の嵐山定例会で見て感激しました。カエデは花も鑑賞する価値ありなんだぁ。

3月末から4月にかけてイロハモミジも花が咲きます。ミツデカエデより控えめの小さい花ですが、開き始めた葉と一緒に紅い複散房花序を風にひらめかせています（図3）。

図鑑でモミジを調べてみました。垂れ下がる花序、上方に起立する花序、房状の花序、これら様々な花序の形を整理して、そうなる理屈を考察すれば卒業論文にもなりそうです。

で花と言えば春はサクラ。靖国神社のサクラが3月27日に満開になったと気象庁が発表しました。この後は散るばかりです。サクラ吹雪は風情がありますが、近年花びらが散るのでなくて花が散らされているのが見られます。落ちた花を裏返してみると、子房の基部が食いちぎられています（図4）。見上げるとたくさんの小鳥がついばんでいるのが観察できます。いつのころからか、蜜を吸うのではなく蜜のある場所を食い破ってありつく技を身に着けた小鳥が増えたようです。色んな小鳥がいますが、観察した南千住では雀（すずめ）が大活躍をしていました。こんなことをみて自然界の技術発展（進化？）が今も続いているんだと思いました。

桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

嵐山の木材搬出！背水の陣の3回目

先月に続き嵐山の材搬出について取り組みました。

“単線循環式軽架線”という林業での手法を用いて最後のチャンスとして活動しました。土曜日にしっかりと時間を取り設置を入念に行う。

しかし、前回のワイヤーの絡まりが巻きすぎが原因だと思いましたが、少なくしてもどっちかに引っ張られてしまい絡まりが発生。仕方なくワイヤーを1本でつなぎ、そこに動力装置の力を使って木材を引っ張るように変更しました。

軌道修正させたため、翌日の日曜日まで準備が必要となってしまいましたがなんとか動力を使って1本を搬出することに成功。

その後は、中学生の人海戦術にも助けられワイヤーを伝いながら材を次々に搬出させていきました。

３分の1程度を出したことになりましたが、朝のビハインドを考えると、なかなかのペースだったと思います。

暖かくなった４月からは年間の活動計画も立てていき、入山からの作業道の着手か新たな散策ルート確立に寄与していきたいと思います。

滝澤　康至（ForesTo Class）

【若者の森づくり】Foresto Nova

今回の嵐山の定例活動では宮村先生の活動に参加しました。今回の活動では森の中に繋がれたワイヤーを使って山の上から木を下まで運ぶという活動を行いました。木の運搬は初めは楽にできると思ったのですがいざ始めてみると木を運搬する道の途中がでこぼこしてたり、大きな穴が空いていたり、斜面が急だったりしてとても大変な活動でした。しかし何回も運搬を続けるとみんなコツをつかみ楽に運搬が出来るようになりました。そこからは多くの木を運搬できるようになり人力でほこぶよりも数倍の速さで作業が進みました。

今回自分は久しぶりの参加でとても緊張しました。そのため初めはあまり活動に参加出ませんでした。しかし色々な方々が声をかけてくれて自分が活動に参加しやすいようにしてくださりとても楽しく活動をすることができました。

山口　拓海（Forest Nova）

【若者の森づくり】地球環境部

今月は、高校に進学した生徒の感想と３月に新潟の朱鷺メッセで行われた日本森林学会で高校生ポスター発表した生徒の報告をご紹介します。

最初、活動に参加しようと決めたのは、このままでは自分が大きく変化する機会を得られないのではないかという漠然とした不安があったためである。

私がこの活動に参加するのは今回で3回目である。前々回、そして前回の活動を通して、森の中で過ごす新鮮な気持ちや、作業後の清々しい気持ちを知った。その経験か

ら今回も参加を決めた。

今回は主に、滑車を用いて、積んでおいた丸太を軽トラックまで運ぶ作業を行った。より効率的かつ運ぶ人の負担を少なくする方法を試行錯誤し、最終的に軽トラック３台分の木材を運ぶことができた。また、4人で運んでいた木材を2人で簡単に動かすことができるようになった。ここでは、指示を待つのではなく、主体的に動いていくことが必要で、広い視野、そして行動力をより向上させることができた。

安易な生活からは得難い達成感、共同作業の楽しさを今回も経験することができた。また、違う土地に足を運ぶことで、自分の住む地域の色や匂いを知ることができた。これからもこの活動を通して自分を見つめ直し、より豊かな感性を培っていきたいと思う。

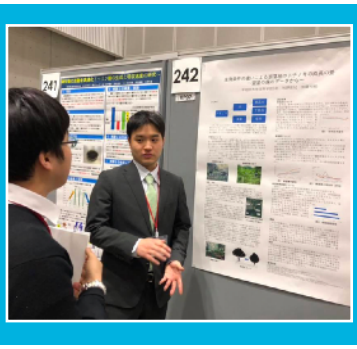
廣川　鋭（都立国立高校１年）

私は新潟県で行われた第130回日本森林学会大会に参加して様々な経験を得ることができました。私は、学会に発表を見にくる方々は大学の先生や森林関係の仕事をされている方ばかりだと思っていました。しかし、将来教師になって自然について子供たちに教えたいという東京大学の大学院生の方も私たちの発表を見にきたので驚きました。また、他の高校生の発表を聞いた際に、かなり大規模な活動を行っていたのでどのくらいの人数で行ったのかを聞いたところ、たったの15人で研究していたため感銘を受けました。私たちの発表を見にきてくださった方には、まったく気がついていなかった点を指摘していただき、良い経験になったと思います。

加藤　大樹（早稲田大学高等学院３年）

今回、森林学会で発表をする機会を頂いた。大規模かつ、森林、林業の専門家が集まる会場での発表というのは初めてであり、非常に緊張した。始まってみると、発表の仕方から自分の考察に対しての意見やアドバイスを専門家から拝くことができ、大変充実した時間を過ごすことができた。特に、琉球大学の教授から教えて頂いた「パイプモデル理論」は、今後の「望星の森」でのトチノキの育成活動でも活かしていきたいと思う。また、研究者はもちろん、同世代の高校生の行っている発表も興味深いものがあり、また、今まで感知していなかったジャンルの事柄についても、興味を持つきっかけとなる良い機会となったように思う。

牧野　佑紀
（早稲田大学高等学院３年）



NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所、ウッドバンク㈱

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。